新人戦第四支部大会結果報告

10 月 18 日（日）一回戦　高島　131 – 17　練馬工科

立ち上がりから大量リードを奪い、終盤にはベンチメンバーも躍動。全員出場で初戦突破を決めました。

10 月 25 日（日）　二回戦　高島　57 – 111　東京文華

勝負の二回戦。前半、速い展開から点の取り合いとなるものの、第 2Q 終盤には相手のアウトサイドシュートが高確率で決まり、13 点ビハインドで前半を終えます。巻き返したい後半、相手の激しいプレッシャーの前にミスが続きリードを広げられてしまいます。最後まで相手の圧力を前に自分たちのリズムがつかめず、敗戦となってしまいました。

チームが変わる最大のチャンス

二回戦の対戦相手、東京文華は選手層が厚く、激しいディフェンスと高確率のアウトサイドシュートが素晴らしい力のあるチームでした。

ただ、どれだけ力のある相手とは言え、昨年度、ベスト 4 まで勝ち上がっている大会において二回戦で大差をつけられての敗退。ショックがないと言えば嘘になります。

私自身、選手たちにどういった声をかけるかいろいろと考えました。そうした中で、大会後最初のミーティングで選手たちに伝えたのが上記の「チームが変わる最大のチャンス」だということです。

組織も人も変化を嫌うもので、今まで取り組んできたことを変えるのは大変勇気がいることです。チームがうまく行っている時でも修正点はあるはずですが、なかなかそれを変えることはできません。だからこそ、これだけ悔しい経験をして、否が応でも自分たちの力不足を痛感させられたタイミングを、自分たちが変化を起こす絶好機だと考えたいのです。

大会後のミーティングでは、選手一人ひとりがチームに変化をもたらすことに対して当事者意識を持ってもらいたいと考え、全員に発言を求めました。多くの意見が集まり、練習後のミーティングの進め方や朝練のやり方など新たな試みを実施することとなりました。

うまく行かなかった時のマインドセット

大会で思うような結果が出なかった時のマインドセットとして、「現状分析は厳しく、目標に対しては希望を捨てない」ことの重要性を伝えました。厳しい結果となってしまったことに対して、周囲のせいにせず、自分自身の力不足として受け止める。その厳しい現状を認めた上でなお、未来への希望は捨てずに目標としている東京都ベスト 32、16、8 を真剣に目指す。

どうしてもその逆で、結果が出なかったことの原因を自身の実力以外のせいにして、力のない自分たちを受け入れない一方、未来への希望は失い、高い目標は口先だけのものになってしまいがちです。

我々はそうした精神的な強さが求められるけれども、自分たちの成長につながるマインドセットで日々の活動に取り組んでいきたいと考えています。口で言うほどそうした姿勢で練習に取り組むことは簡単ではないはずですが、だからこそ選手に求め続けていくつもりです。

長い人生の中で壁にぶつかること、もうダメかもしれないと弱気になることが必ずあるはずです。今の部員たちが将来そうした状況に置かれた時、「高校でバスケットをやっていた時、新人戦で大敗を喫したところから、あきらめることなく努力を続け、心身ともに大きくステップアップできた」という成功体験を支えに粘り強く取り組める大人になってもらいたいと考えています。そのためにも、今こそ踏ん張り時です。ここで精神的に落ちてしまうことなく、壁を乗り越えるためにチームで団結する必要があります。今回の敗戦を決して無駄にしないためにも、日々の練習で真剣勝負を続けていきます。